The Human Science Research Bulletin
2008, No. 7, 111-120

実習における個人観察の意義の検討

児童学科　阿部直美・村井尚子

抄録：保育者をめざす者にとって，子どもをいかに理解するか「幼児理解」は重要な課題である。そこで幼児理解への試みとして，幼稚園実習において，幼児一人を抽出し，言葉・行動を実習日誌に記録する個人観察を課題設定した。本論文では，この個人観察を通して，幼児の成長と，実習生の幼児理解の深まりを分析し，実習における個人観察の意義を明らかにする。

キーワード：幼児理解　個人観察　実習日誌　幼児の成長

1　研究目的

幼稚園教育要領解説（平成11年度版）には，「教師自身が幼児とのかかわり方を考えるに当たって基本となるのは，幼児一人一人の特性を的確に把握し，理解することにある」，「教師は一人一人の幼児に思いを寄せ，幼児の気持ちや欲求など目に見えない心の声を聴き，その幼児の内面を理解しようとすることが必要である」[(1)] とある。つまり保育者を目指す者にとって，子どもをいかに理解するかという「幼児理解」の能力を高めることは重要な課題であると言える。今井は，子どもを理解するために，「目に見える現象だけで子どもを評価する傾向を排し，その奥にある心の動きをとらえていくためには，書くことによって省る（振り返る）力をつけること」が重要であると指摘する。そして，「時間の流れにしたがって，客観的・具体的に書きつらねてみることによって，子どもの小さな変化に気づいたり，自分の見方の狭さに気づくのです。他の違う一面が見えてくるのです」と述べ，時系列的に，客観的・具体的な記述を行なうことによる，幼児理解の深まりを見て取っている[(2)]（今井 1999）。

本論文においては，この時系列的，客観的，具体的に「書くこと」によって，学生の幼児理解がいかに深められていくかを明らかにすることを目的とする。そのために，実習中に時間を決めて，一人の幼児に的を絞った観察を行なった。そして，その観察の内容を個人観察記録として記録させた。さらに，半年間という時間を経て同様の観察を行ない，それらの観察記録を分析することで，学生の幼児理解の実際，さらに半年間の幼児の成長と学生の幼児理解の深まりを明らかにすることを目指したものである。

2　研究方法

(1) 対象及び期間

・対象学生　O女子大学4回生40名
・対象園　　O附属幼稚園
　3，4，5歳児126名在籍（男児44名女児82名）
・期間
　第1回観察実習期間（2005.4.18～6.2）
　第2回観察実習期間（2005.11.21～2006.1.19）

(2) 方法

1学生につき，1期間中4日間観察実習を行い，うち2日間時間見本法により個人観察記録を取る。

① 任意の幼児を1名選択する。
② なぜその幼児を選択したか，選択理由を明らかにし，課題を設定する。
③ ②において設定された課題が観察可能であると思われる場面（設定保育後の自由遊び等）を選ぶ。
④ 15～20分間①の幼児を観察し，行動，発語を逐一記録する（その際できる限り幼児への介入は避けるようにする）。
⑤ ③～④の過程を約半年後，同一幼児を対象に反復する。

以上の結果を分析して考察を行った。

3 結果と考察

<1> 学生の選択内容

(1) 観察対象児の特性

ここでは，学生がなぜその対象児を選んだかを分析することで，学生にとってどのような特性を持った幼児が気になるのかを明らかにする。但し，対象児は重複しないことを前提としていた。

① 年齢

三歳児	12名
四歳児	14名
五歳児	14名

② 男女（但し男児44名，女児82名のうち）

男児	19名(43%)
女児	21名(26%)

男児対象児となったのは男児全体の43%，女児対象児となったのは女児全体の26%となる。よって男児に対して観察してみたいと考えた学生が多かった。

③ 選択理由（自由記述式）

以下に，学生が自由に記述した選択理由を，肯定的側面と否定的側面，客観的側面とに大別したうえで，カテゴライズを行なった。

（肯定的側面）
・しっかりしている…3名　・友達が多い…3名
・会話がおもしろい…2名　・笑顔が多い…2名
・強い意志を持っている…1名

（否定的側面）
・友達と遊べない，ひとり遊びが多い…13名
・すぐ泣く…3名
・暴力的…2名　・マイペース…2名
・おとなしい…1名　・甘える…1名
・独占欲が強い…1名　・人見知りをする…1名
・強い口調で話す…1名・絶えず確認する…1名

（客観的側面）
・二年保育児…2名
・月齢が一番低い…1名

選択理由として，友達との関係，特に否定的側面（友達と遊べない，ひとり遊びが多い，特定の友達としか遊べない等）が多かった。

④ ②と③のクロス集計

	肯定的側面	否定的側面	客観的側面
男児	3名	15名	1名
女児	8名	11名	2名

男児については，肯定的な側面より，否定的な側面を観察理由に挙げた学生が多かった。逆に女児については，男児に比べ肯定的側面の選択理由も多かった。

(2) 課題設定（自由記述式）

ここでは，学生が対象児のどんなところを観察してみたいと考えているかという課題設定に関して自由記述を行なったものを分析する。
・友達とのかかわり，友達作りをみたい…24名
・集団生活での成長をみたい…8名

・行動の要因，理由を知りたい…5名
・言葉の成長をみたい…3名

学生が設定した課題は，上記の4つの理由に集約された。なかでも，友達関係をいかに広めていくかを観察したいという意見が多くみられた。これは，選択理由において，友達との関係になんらかの気になる部分があると考えたものが多かったことによると思われる。

また，対象児がなぜそのような行動をとるのかというように，「なぜ？」，「どうして？」と疑問点を挙げて，じっくり観察することによってその要因を知りたいという意見もあり，学生の対象児を理解しようという意欲が感じられた。

(3) 個人観察場面（第1回，第2回）

個人観察の場面は，学生が任意に選択してよいものとした。よって，学生は，自分が観察したい幼児に関して，設定した課題が最も顕著に見られると想定する場面を選択しているものと思われる。そこで，ここでは，学生が対象児の個人観察を，一日の保育時間の中で，どの時間帯を選択して行っているかを分析する。

観察場面	第1回	第2回	観察場面	第1回	第2回
自由遊び	68	63	やきいも	0	3
描画	4	2	遠足	2	0
製作	5	9	降園準備	0	2
朝の集い	1	0	お弁当	0	1

観察場面は，両回共自由遊びの時間が圧倒的に多い。これは，選択理由，課題設定において，友達関係についての課題が多かったこと，また対象児の自然な姿が最も観察可能な場面であると学生が考えたことによるものと推察される。

<2> 第1回個人観察の前後における幼児理解の変化

学生には，個人観察記録に続けて，感想を自由に記述させている。ここでは，学生の第1回個人観察後の感想をもとに，個人観察を行うことにより，学生の幼児理解のあり方に当初想定した特性との変化がみられたかを分析する。

・当初の特性と幼児理解が変化しなかった学生…12名
・当初の特性と幼児理解が変化した学生…28名

第1回個人観察を行うことにより，まだ短い時間の個人観察ではあるが，選択当初の幼児理解のあり方から変化した学生が70%を占め，非常に多かった。

そこで，以下具体的事例を挙げながら，学生の幼児理解の変化を考察する。

第1回個人観察後の感想・具体的事例

事例A

> 普段とてもおとなしく，集団のなかではあまり目立った行動もとらず控えめな感じだが，自由遊びの時間は自分がしたいことをのびのびとしているように見えました。友達にも声をかけていたのでとても驚きました。(3歳児　男)

事例B

> 初めはできない事，思い通りにならないことがあると，すぐ泣き，あまり自分で考えず答えを求めてくるという印象がありました。しかしヒントの与え方によっては泣かずに自分で考え，できるようになると楽しくしていました。
> (5歳児　男)

第1回の個人観察を経て，事例A・Bのように，全体でみていた選択当初と比べ，対象児の他の側面に気づく記述が多くみられた。学生にとって幼児の今まで見たことのない側面を目の当たりにすることは，とても驚くべきことであり，新しい発見であったにちがいない。この経験から，一人の幼児には色々な姿があって，一方向からだけ認識している姿とはちがう側面があることに気づけることができたようである。

しかし，幼児の特性にある程度気づいてはいるが，第1回個人観察では，観察した現象をそのまま，見たとおりをそのまま記述するに留まっている。幼児の内面を読み取るためには，もう一歩踏み込んだ観察が必要であろう。今井は，「子どもの内面を読みとることができるようになるためには，子どもの現象に，なぜこういう行為をするのかな？と考えるための杭を入れた書き方をすることがとても大事ではないかと思います」(3)（今井 1999）とする。第1回個人観察記録においては，学生が子どもの思いを推察したり，疑問に思ったり，今後の課題を考えたりという記述がほとんどみられなかった。すなわち，第1回個人観察においては，学生の一定の成長はみられたが，幼児理解のためにあと一歩踏み込んだ見方ができずにいる様子が読み取れる。

<3> 第1回と第2回個人観察の比較

(1) 幼児の変化

ここでは，学生の第2回個人観察後の感想をもとに，約半年後の幼児の変化，成長を分析する。また幼児がどのように成長したか，具体的な内容についても分析する。

- 「成長した」と記述した学生…38名
- 「成長しなかった」と記述した学生…0名
- 比較できず(対象児欠席　等のため)…2名

第2回個人観察において，対象児が成長したと全ての学生が回答し，半年間の幼児達の成長がうかがえる。以下，具体的にどのように成長したと学生が感じたのかを分析する。

具体的内容について

- 友達関係の変化
  (友達とのかかわりができた，友達と一緒に遊べるようになった，友達の輪が広がった，友達との絆が深まった，等)…14名
- 自分の意見を言えるようになった…6名
- やさしい一面がみられるようになった…3名
- 言葉数が増えた…3名
- 泣かずに頑張っている，泣かずに楽しそう…2名
- 自分で行動できるようになった…2名
- 身体を動かして遊ぶようになった…1名
- かんしゃくを起こさず，協調性がでてきた…1名
- 前向きになった…1名
- 自分の考え，希望を強要しなくなった…1名
- 客観的に周りを把握し，行動している…1名
- 動きがはやくなった…1名
- しっかりもので，手伝いもよくしてくれるようになった…1名
- 芯の強さを感じた…1名

上記の具体的内容について，具体的事例を挙げながら幼児の変化について考察する。

第2回個人観察後の感想・具体的事例

① 友達関係における成長例が多くみられた

事例C

> 4月当初は周りの子どもと話す姿がみられなかったのに，この半年で友達と話すことは勿論自分から友達に話しかけたり，友達を遊びに誘っていたりする姿がみられるように成長していました。「友達」や「集団」という周りとの関係が築けており，同じ個人でも孤立した個人ではなく，集団の中の個人という印象をうけました。クラスの一員として，立派に存在していると感じました。(4歳児　男)

事例D

> 前回の観察では，自分の意思ははっきり持っているため，積極的に遊びを楽しんでいましたが，独自の遊びを作り出していたため，なかなか周りとの関わりがありませんでした。しかし今回の観察では，友達がしている遊びに興味を持ち，友達とのかかわりの中で自分の遊びを膨らませていく姿が多くみられました。遊びの楽しい様子を友達や保育者に話すことで共感する姿もみられ，遊びを大きく広げていました。(5歳児　男)

事例C・Dのように，幼児の変化としては，友達関係においての成長例の記述が多くみられた。これは選択理由，課題設定において友達との関係についての設定が多かったことと関連していると考えられる。同時に友達と一緒に過ごす時間の長い幼稚園において，幼児を理解するうえで，なによりも最初に注目する場面であるからだと考えられる。友達とのかかわりの中で，幼児達は自分の素直な姿を表現することから，学生も観察しやすく，また幼児の成長がめざましかったということから，学生の感想も多かったと推察できる。

② 多面的な成長の様子がみられた

事例E

> 4月に個人観察をした時は，友達と遊びたくても少し照れて上手に誘えなかったり，声もかけずにじっとみているという状況でした。そして今回半年後を観察して，前回よりもとても言葉の数が増えたと思います。それと同時に友達と遊ぶ姿もたくさんみることができました。また，ただ遊ぶのではなく，自分から誘ったり，何をして遊ぶかを一緒に決めるなどしていました。（4歳児　女）

具体的内容「自分の意見を言えるようになった」という面での成長において，事例Eのように，同時に「友達とのかかわりが増えた」「友達の意見も尊重できるようになった」「人の気持ちを考える力がついてきた」等の記述があり，合わせて協調性の成長を挙げる学生が多かった。しっかり自分の思いを言葉にできると同時に，幼児達の中に友達を思いやる気持ちが育ってきていることがうかがえる。

このように，幼児の変化は，ある一つの側面に限られるのではなく，様々な要因が相互に関わり合って総合的に成長していく様子が，観察を通して実習生にも感じられたようである。

③ 3歳児において成長の様子が顕著にみられた

事例F

> 初めに観察した時は，4月に入園して間もない頃だったので，何もかも初体験の出来事なので，登園してくる時も母親にしっかりひっついて，とても不安気な表情を浮かべていました。遊びの中でも友達とかかわることはほとんどなく，周りの大人に甘えに行くという状況がみられました。そして何か気に入らないと物を投げたり，たたいたりという行動を起こしていました。今回観察すると，当たり前のことかもしれないけれど，すごく成長していて驚きました。友達と楽しそうに笑いながら遊んでいる姿は一番成長した部分だと感じました。入園当初にはほとんどみられなかった笑顔がよく見られたので，「不安」だと感じていた幼稚園を今は「楽しい場所」として受け入れているんだと思いました。（3歳児　男）

対象児が3歳児の場合，事例Fのように「とても成長していて驚いた」「変化が大変大きく驚きました」等の記述が目立った。これは，第1回観察実習期間が4月・5月の入園当初で，まだ幼児達が幼稚園にも，集団生活にも慣れていない時期の実習であったため，「泣いていた」「不安そうだった」等，目に見える現象が多くみられたことが考えられる。そのため，特に3歳児において，幼児の変化の様子が顕著で，実習生が大きな驚きを感じたことが感想から明らかになる。

(2) 学生の変化

ここでは，第2回の個人観察を行なうことにより，半年前の対象児の当初の特性と半年後の観察による結果とに変化がみられたかを分析する。

・幼児の特性が「変化した」と記述した学生…37名

・幼児の特性が「変化しなかった」と記述した学

生…1名

・比較できず(対象児欠席　等のため)…2名

第2回個人観察を行うことにより，選択当初の幼児理解から変化した学生がほぼ全員となり，第1回個人観察に比べて学生の幼児理解が深まったものと考えられる。

では，どのように学生の幼児理解が進んだのか，まず第1回個人観察ではみられなかった第2回個人観察後の感想を挙げ，学生の変化について考察する。

第2回個人観察後の感想・具体的事例

① 幼児の様々な側面に気づく

事例G

> 今回の観察での遊びは，じゃんけんをして負けると友達のブロックと交換したり，攻撃したりできるというゲームを楽しんでいました。そんな時，一方で，あまり自己主張しない友達を周りの子ども達と一緒にいじわるをしたりする場面がみられたので，残念に思いました。誰とでも話し，仲良くできるY君なので優しさを持って，みんなと仲良く遊べるようになってほしいです。(5歳児　男)

これは第1回個人観察後の感想においてもみられたが，事例Gのように，「優しいY君」には一方で「いじわるをする場面がみられた」というように，一人の幼児には，他の側面もあるということを認識し，一方向から幼児を捉えるのではなく，様々な方向から捉え，良い面も悪い面も，すべてまとめて一人の幼児の特性であり，個性であるということに気づいている。本事例では，この両面に気づいたうえで，Yくんに「優しさを持って，みんなと仲良く遊べるようになってほしい」と書かれており，実習生のY君の内面に対する理解とそれに基づく期待とが述べられている。このように，様々な側面に気づくことが，幼児理解の第一歩であると考えられる。

② なぜだろう？どうしてだろう？と疑問に思う

事例H

> 今回の観察で，まだ他児のようにすんなりと遊びの輪に入っていくのではなく，しばらく近くで様子を伺ってから話しかけているように感じます。個人個人で遊びへの参加方法はちがうので，それほど気にすることではないのかもしれませんが，少し気にかかります。これは，半年前にはあまりみられない行動だったので，何か原因があるのか，それとも一時的なものなのか，とても気になりました。(5歳児　男)

これは第1回個人観察後の感想ではみられなかった記述であるが，事例Hより，「すんなり遊びに入っていけない」幼児の行動をみて，そのまま見過ごすのではなく，まず疑問に思うこと，なぜだろう？どうしてだろう？と感じることが，幼児を理解するきっかけになると思われる。この場合，推察するまでには至っていないが，疑問に思うこと自体が幼児理解のきっかけになったと考えられる。

③ 幼児の思いを推察する

事例I

> 「いれて」「おいで」等の言葉が自然に言えるようになったのは，すばらしいことだと思う。幼稚園という場所がSちゃんにとって危険な場所ではなく，楽しいところ。友達がたくさんいて，優しい先生がいる。だから安心していられる。とても単純なことだが，最も大切なことだと思う。それがわかった時，初めてわがままが言えたり，ちょっと冒険してみたり，自己主張ができるようになったりするのだと考えます。
> (3歳児　女)

事例Iでは，「言葉が自然に言えるようになった」と観察した幼児の成長・行動に対して，結果だけをみるのではなく，そこに至るまでの状況を

考察したり，幼児の内面にある思いを推察したりする記述がみられる。これは，第1回個人観察ではみられなかったことで，ひとつの成長の過程を分析し，幼児の内面に思いを馳せる姿勢・態度は，保育者としても大切であり，学生の幼児理解の成長であると考えられる。

④ 後退しているようにみえて，前進だと気づく

事例J

> 今回観察していると，仲の良い友達がいて一緒に遊んでいますが，半年前より言葉数が減っているのが気になりました。それは友達の話をよく聞いている証でもありますが，自分の思いを出しきれていないように思いました。また仲の良い友達二人にひそひそ話をされたりしても，なかなか輪の中に入りきれていませんでした。グループの中の人間関係にも子どもなりに問題を抱えていると思います。しかしこれらは，成長していくうえで，大切なことだと思うので，乗り越えていく必要があると思います。またみんなで遊ぶ楽しさが実感できるよう援助することが必要だと思いました。（4歳児　女）

事例Jのように，「言葉数が減った」という幼児の行動だけをみていると，成長と捉えられず，後退しているかのように理解してしまうこともあり得る。しかし，これは成長の一段階であり，「大切なことなので，乗り越えていく必要がある」と理解していることは，学生の大きな変化である。これは，幼児の成長を多面的にしっかり把握できており，一人の幼児を半年という時間を経て再度観察することにより，その幼児の成長の過程を考える機会となり，学生に現れた成果であると思われる。

⑤ 今後の課題や指導方法について考える

事例K

> 今回自分の考えと違う考えを持った子どもに対して，否定する姿も多くみられました。自分の思い通りにならないことがあった時に，それを受け入れていけるようにしていくことが，今後の課題となるのではないかと思います。これからたくさんの子ども同士で関わり，ぶつかり合う場面が出てくると思います。しかしぶつかるからこそ，相手の気持ちにも気付けるので，そういう機会を大切にし，保育者として援助しなければならないと思いました。（3歳児　男）

保育者を目指す学生にとって，事例Kのようにどのように「保育者として援助しなければならない」かを考えることは大切である。この種の記述は多くの学生にみられ，未来の保育者としての自覚が感じられる。同時に，そのためには一人ひとりの幼児をしっかり観察し，しっかり理解することが保育者としての第一歩であり，そこから保育者としての接し方，かかわり方，配慮や援助を考えることが必要であるということを，この個人観察を通して学べたのではないかと思われる。

第1回と第2回個人観察後の感想の比較・具体的事例

次に，ある学生の選択理由・第1回・第2回の感想の変化を挙げ，比較することにより，学生の幼児理解の変化について考察する。

事例L

> 選択理由：周りに常に友達がいて，とても人気があり楽しそうに遊んでいる。どうしてY君には友達が集まってくるのかを観察してみたい。

↓

> 第1回観察後の感想：すごく積極的な子という印象がありました。でも今回観察させて頂いてすごく気にする子だと思いました。小さい組の子どもが泣いてしまった時，すごく気にしてじっと見ていました。しかし先生や友達になにも言わず，じっと見ているだけでした。

↓

第2回観察後の感想：すごく活発で人気があるが，友達のK君といることによってY君の良さが発揮できているように感じた。そしてすごく活発だけれど，今ひとつ踏み込めていないように感じた。これは，Y君の優しさからくるものではないかと思った。優しすぎて他の子や，いろんな事を気にして踏み込めないのではないか。そんなY君の優しさを友達は知っているからY君が好きなのだと思う。(5歳児　男)

事例Lより，当初は「人気があり，楽しそう」と理解し，対象児を選択していたが，第1回個人観察により，「気にする子」という他の側面に気づくことができた。そして第2回個人観察により，より深くY君を理解し，「やさしさからくるものではないか」と自分自身の見解を述べている。

このように幼児の行動や言葉をしっかり観察し，じっくりと一人の幼児と向き合い，幼児の心の中を知ろうと努め，それを記録にとって，幼児の内面について考える機会を持つことにより，学生の幼児理解の深まりがみられた。このように，半年の期間を経ての個人観察の記録という試みには，一定の成果があったと思われる。

教育実習においては，実際に幼児達に触れ，幼児達を感じ，幼児達と一緒に遊び，幼児達と共に経験することにより学ぶことが，大切なねらいであると考えられる。しかし，一日の少しの時間，幼児達との関わりの場から少し離れ，客観的に幼児を観察し，冷静な目で幼児についてじっくり考える機会を持つことは，以上の事例からも学生にとって，重要な経験であると考える。

<4> 個人観察の学生の意見・感想

最後に，個人観察を行なった学生の意見や感想を，観察後の感想から取り上げる。記録に関する感想欄を設定していないため，任意に感想を記述した学生の意見のみとなる。

学生40名中16名からの回答となった。

具体的内容について

(肯定的意見) 14名

- 長時間一人の子どもをみて，今までみえなかった個性や気持ちを知ることができた
- 一人の子どもにここまで集中したことがなかったので，おもしろく感じた
- 普段みえなかった部分がみえたように感じた
- 初めて気づくことがいくつかあった
- 子どもの行動や言葉をじっと見聞きしていると，子どもの世界に入っていくようで楽しいと感じた
- 子どもの会話を聞いていて，何気ない会話でも一つ一つ意味があると思った
- 普段は一人の子どもを長い間みることがないので，子どもの視線や考えていることがよく分かった
- 普段の生活からみられない部分もみえてきて驚きがあった
- じっくり子どもをみたのは初めてで，観察していくうちに色々な面がみえてきて楽しかった　時間をおいて観察することで，成長した姿や新たな発見もみることができ，とても勉強になりました
- 子どもの考え方や行動などを細かくみることができおもしろいと感じた
- 子どもの会話を聞いていて，子どもの気持ちになって考える良いきっかけになった
- 子ども同士のやりとりや行動をみてとてもおもしろく，子ども達だけの世界があると感心した
- どのような言葉を話し，行動するのか楽しみだった　一人の子どもをじっくり観察することの大切さを知りました
- 一人の子どもをこのような観点からみたのは初めてで，貴重な体験でした

(否定的意見) 2名

- 一人の子どもに集中しての観察は大変だった　観察中に他の子どもから色々頼まれて悩んだ

・よく動くので，ついていくのに必死だった　他の子どもへの対応に困った

上記より，個人観察という学生にとって初めての経験を体験することにより，戸惑いもあったようだが，肯定的な意見が多かった。一人の幼児をじっくりと観察することにより，「普段みえない部分がみえてきた」，「色々な面がみえてきた」と幼児の新たな発見に結びつき，幼児理解において重要な『気づき』がみられた。

また「おもしろかった」，「楽しかった」と個人観察を楽しいものとして経験できたことは，なによりも大切なことであると考える。これは，幼児をじっくりみてみよう，幼児のことをもっと知りたい，と思える姿勢へとつながり，今後にも活かされると思われる。このように，個人観察を行なうことは，学生にとって有意義であり，貴重な体験となったことがうかがえる。

ただ否定的意見として，観察の大変さ，他児への対応の難しさを感じている学生も2名ではあるが見られた。今後実習事前指導を通して，学生と共に考える機会を持ちながら，指導していきたい。

4 おわりに

幼児理解への試みとして，幼稚園教育実習において個人観察を行ない，考察を進めてきた。

個人観察を始める前の段階では，学生は，言葉や行動から幼児を表面的に理解し，一方的な見方が多かった。しかし2回の個人観察を経て，幼児を多方面から捉え，幼児の内面，心の中を知ろうと努力する姿勢，そしてそれを受けとめようとする姿勢がみられるようになった。このことは，幼児との接し方，かかわり方へとつながるものであると考える。

つまり，保育者を目指す者にとって，幼児をしっかり観察することは，大切な初めの第一歩であり，その個性を理解し，受け入れることは，保育者としての大切な姿勢であり，資質である。そのためにも，この個人観察を通して，学生の「幼児理解」がより深まり，今後へとつながるという可能性を信じたい。

引用文献

(1) 「幼稚園教育要領解説」文部省フレーベル館 p 40 p 75 平成11年6月
(2) 今井和子「改訂版　保育に生かす記録の書き方」ひとなる書房 1999 p 5 p 18
(3) 今井和子「改訂版　保育に生かす記録の書き方」ひとなる書房 1999 p 25

参考文献

西久保礼造「観察法による幼児理解」帝国地方行政学会 1972
佐木みどり「保育における「子どもを見る」ことの考察」相川書房 2005

The study of the insight about individual one by one observation on the practical training

Osaka Shoin Women's University
Naomi ABE & *Naoko* MURAI

ABSTRACT

How to understand a child namely "Good Grasping of Child" is a critical challenge for those who wants to be kindergarteners. Then, as an experiment on good understanding of child, choosing one child at the kindergarten where practical training was in place and a apprentice was given assignment of observing on the child whose talks and behavior to be recorded in training diary. In this paper, I would define the idea of individual observation by analysising, the growth of child as well as enrichment of the apprentice understands of child through above mentioned individual observation.

Key words: Understands of child, Individual observation, Training diary, Growth of child